

子ども会活動のしおり

Vol(volume) 5 「指導編」

子ども会活動の中で
あなたが出来ること

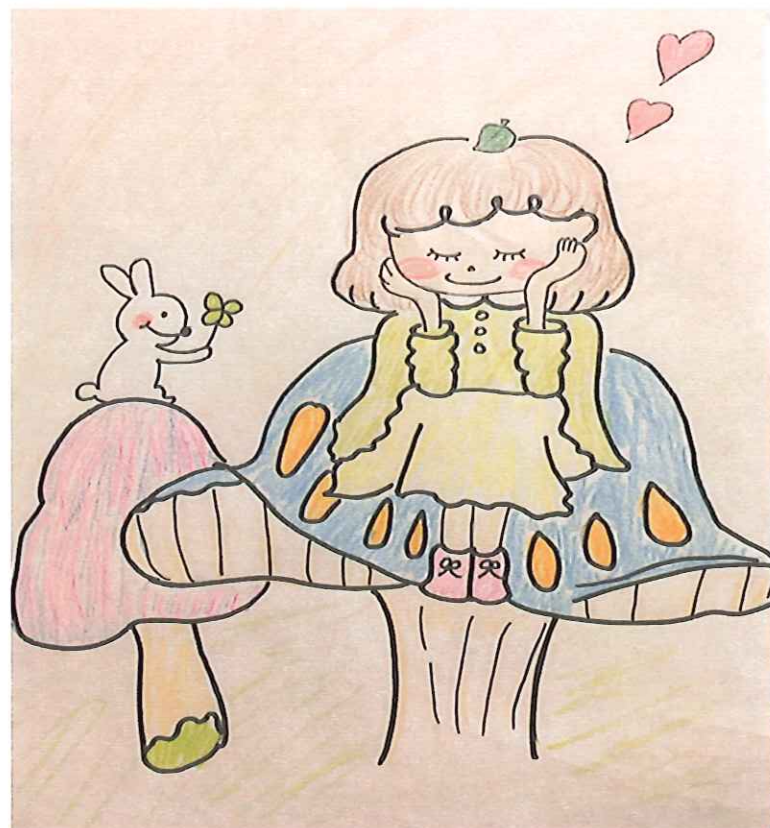


イラスト シニアリーダー 伊橋 恵

目次

- ・指導するということ..... 1 p
- ・良き指導者とは?..... 2 p
- ・最も有力な指導者..... 3 p
- ・掘るか?掘らぬか?地域の宝 4 p
- ・指導の実際
 - イン・リーダー(高学年児童) 5 p
 - イン・リーダーであり
ジュニア・リーダーでもある中学生 6 p
 - イン・リーダー(高学年児童、中学生)
を初めて体験する子ども達へ 7 p
 - ジュニア・リーダー(高校生) 8 p
 - シニア・リーダー(青年) 9 p

指導するということ

子ども会活動の中での「指導」とは、学校で子どもたちが受けている「指導」とは違うのかもしれませんが。例えば親切心からでも「いつまでに出来るようになるろう!」という強い姿勢で有期限の取り組み方をしたら、子どもも、保護者も子ども会活動が嫌いになってしまうかも知れません。

「自分が誰かのために何かできることは?」という純粋な気持ちで協力したとしても、受け取る側にその気持ちが伝わるとは限らないのです。だからこそ、指導という形で活動に携わるなら、真摯な姿勢で情報を収集し、自ら学びを深める必要があります。

もしあなたが誰かから物事を教えてもらうとして、上から目線で指図をするだけという様な方法を採られたら、それが仕事だとしても良い気持ちはしないでしょう。反して「私はこんな所が難しくてうまく出来なかったけど、いろいろ試してきた中でこの様にしたらうまく出来たよ」などと教えてくれたら、素直に聞くことができるのではないのでしょうか。

良き指導者とは?

自分がまず楽しんで見せること

活動に楽しさを見いだせず義務的に参加している人たちがいることを忘れてはなりません。その様な人たちにさらに追い打ちを掛ける様な指導を繰り返して受け入れてもらえないでしょう。率先して自らが活動を楽しみながら、「活動が楽しいもの」と感じてもらえることから始めましょう。

少し前に行く、まわりを気遣いながら

指導者自らが楽しむことは大切ですが、一緒に楽しんでいるだけでは指導はできません。まわりの状況を確認しながら、自分が持っている知識や技術を「一緒にやってみる」的な形で伝えることは有効だと思います。人にもものを教えることは自分の中でそのことをより深く理解することになることに気付くはずです。

相手の思いをくみとれる指導者になろう!

知識技術に優れた指導者であったとしてもそれぞれの人が何を望んでいるか気付くことは至難の業です。^き訊きやすい雰囲気を作ることができれば、相手が本当に知りたいことを指導することができ、指導効果も高く、活動に活用されるものとなります。まず、自分が受け入れられるコミュニケーション術、それが指導という扉を開けるための鍵になると思うのです。



最も有力な指導者

それは子どもたちと最も身近に生活を共にしている保護者です。

子どもに負けるな

子どもたちは日々多くのことを吸収し成長しています。もう学ばなくても誰かから叱られることがないとのんびりしていると昔話の「ウサギとカメ」になってしまうかも知れませんよ！

自分が持っていないものは

分け与えられない

自分が持ち合わせていない知識や技術を子どもたちから求められると、引け目を感じ困ってしまう真面目な保護者がいます。そんな時は潔く知らないことを告げましょう。でもそこで止めてしまっただけでは手本になれませんよ。子どもと一緒に修得することを提案して努力してみてください。そんな前向きな姿勢を示せば子どもに幻滅されることはありません。

頑張って見せちゃえば・・・

油断していると子どもに負けちゃいますよ。
必死に頑張らないと。
楽しみながらやることも忘れずに。

掘るか？掘らぬか？地域の宝

子どもたちからすれば地域のおばさん、おじさん、おばあさんからおじいさんに至るまでみんな子ども会活動のリーダーになってもらいましょう

遊びを通して味わう楽しさ、友達の大切さ、地域に望まれる子どもたちの役割、社会の一員としてやって良いこと悪いこと等は、いつの時代でも変わることはないでしょう。

年長者は「歩く図書館、博物館」とも言われます。「知恵袋」から欲しいものを分けてもらいましょう。もしかしたら簡単に分けてもらえないかも知れませんが「ひも」を緩めるのに一番効果的なのは情熱だと思います。

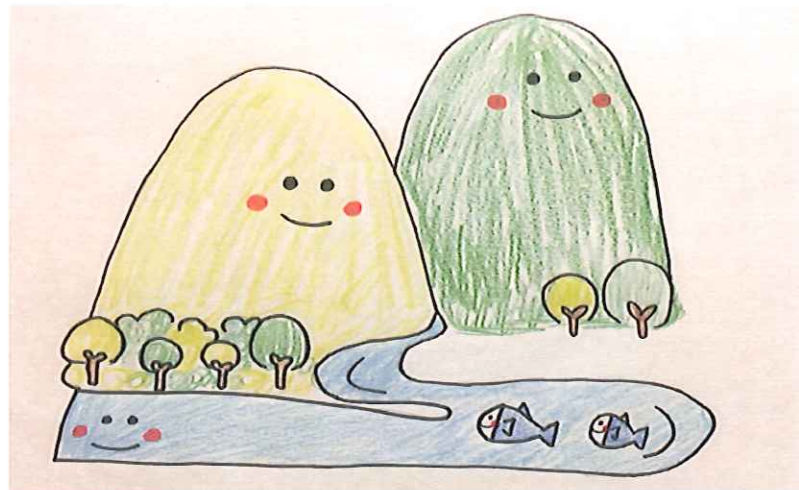


イラスト シニアリーダー 伊橋 恵
v5-4

指導の実際

イン・リーダー(高学年児童)

子どもたちの中で率先して行動をとらなければならない立場にいる児童の事をイン・リーダーと言います。

子どもたちの中からリーダーを探す時、育成者が選ぶと大人の見方やルールで決めることがあります。大人が決めてあげることは悪いことではないのですが、子どもたちが受け入れやすい形かどうか子どもの様子に着目して検討することも必要です。最上級生の中から自発的に出てくるのが理想的で、育成者の固定観念などから強制的に指名し担当させることをしなくても良い様に子どもたちに選ばせましょう。積極的に行動も活発な子に頼りがちですが、地道で仲間の様子を良く観察できる子に任せてみるのも良いでしょう。

特定の子に常時リーダーを任せることをせず「代わりばんこ」に役を体験させ評価してあげることで、多くの子に「自分もできる」という、自らの力を発見させましょう。

「最初が肝心」です。子どもたちに過度の負担を強いたり、リーダーとして指名されながら役割を果たせずがっかりさせたりすることが無いよう、育成者は適切にアドバイスを与えましょう。「やり遂げた快感」は子どもたちにとって大きな自信となり、次の機会を受け入れ易いものとしします。

イン・リーダーでもあり

ジュニア・リーダーでもある中学生

中学生は子ども会会員でありながら、小学生からすれば明らかに「大きな子」です。同じ学校で顔を合わすことのない「お姉さん、お兄さん」として小学生からは、大人より頼りやすい存在です。

小学生の頃に子ども会活動で体験したことと照らし合わせることができるというメリットを有しており、小学生の考えや、小学生が何を望んでいるかなどをくみ取る力は大人より優れているといえましょう。同時に育成者である大人の都合も少しずつ理解できる様にもなってきます。中には大人顔負けのコミュニケーション技術を持った子や、指導することが上手な子が出てきます。役割を与えることで能力は飛躍的に向上しますが、頼りすぎないよう注意が必要です。

学業や部活などで時間がいくらあっても足りない時期で、子ども会活動から遠ざかって行く子が多くなると、「自分だけ参加し続けていること」が不安になり、皆と同じ行動を取りたくなるのでしょう。そんな障害を乗り越えてジュニア・リーダーとしての活動を続けられる楽しさと、やりがい育成者側が与えることが必要不可欠です。

イン・リーダー(高学年児童、中学生)を 初めて体験する子どもたちへ 挑戦しよう

「ちょっとの勇氣」それさえあればOK
思い切ってまずあなたが楽しんで見せましょう。

氣負わず

誰でも最初からうまくできる人ばかりではありません。リーダーに指名されたからと言って頑張りすぎないで。みんなと一緒に楽しく行動しよう。

めげず

もしかしてうまくいかないことがあったら、人に相談するなどして違ったやり方を試してみよう。投げ出したらだめ。うまくいかない時こそ大きな声を出そう。

くじけず

失敗は誰にでもある。次はうまくやれるよう頑張ろう。失敗の原因を他人に指摘されると腹が立つが、自分で考えると自分を見直し、成功につながることができる。

うぬぼれず

うまくいったら、そこには必ず仲間の協力があるはずです。感謝の気持ちは大げさなくらいはっきりと伝えましょう。自分で協力してもらったより多くみんなに協力しよう。

ジュニア・リーダー(高校生)

受験という大きなヤマを越えても子ども会活動に興味が残っていれば、リーダーとしてますます力を発揮できるようになります。

育成者や指導者からの指示などを子どもたちに伝えたり、子どもたちの遊び相手になったりするだけでなく、育成者や指導者が気付かないところが見える様にもなってきます。中堅リーダーとして仲間が集まって意見交換をしたり、必要なスキルを身に付けるための研修会に参加したりするなど、自分を高める機会を、あまり無理をさせず体験させましょう。育成者や指導者と情報交換することは活動を展開して行く上でとても有意義ですが、子ども会活動に多くの時間を費やすことは簡単ではないので、SNSなどを有効に使う方法を取り入れるのも良いのではないのでしょうか。活動を通じて気付いたことがあれば、仲間と話し合ったり、育成者や指導者に提案し検討したりすることで皆が多くのことを学べ、問題解決にもつながります。育成者や指導者は中堅リーダーであるジュニアリーダーが提案したり意見が言えたりする状況作りに努め真摯に対応することが不可欠です。

シニア・リーダー(青年)

理想は「ガキ大将」

現代ではこの言葉さえ忘れ去られています。

「悪童」という意味ではなく多くの仲間と共に行動する中で仲間認められて必要な指示を出せたり、行動の手本を見せたりする力を持っている子どものことを指しての「称号」です。

自分を慕ってくれる年下の子どもたちに知識や技術を伝授し、大人たちからの中傷には自らを盾にして仲間を守る。仲間にはある程度の上下関係があり、暗黙のルールを誰もが理解している。

現代の子ども社会ではとても受け入れられないと思うかも知れませんが、遊びの中で社会を学ぶことを考えると理にかなっている所も多い。

「ガキ大将」を子どもたちにどう発信するかは指導者のアレンジ次第ですが、詰め込まれた「ノーハウ」はとても優れたものが多く、うまく活用し、もしあなたが「現代的ガキ大将」になれたなら、時代を超えて多くの人たちからの『あこがれの的』になることができるでしょう。